

平成 30 年 6 月 26 日

福岡市地下鉄経営戦略の素案について

交 通 局

目 次

第1章 策定の目的	P.1
1 策定の目的	
2 計画の位置づけ, 計画期間等	
第2章 現状と課題	P.2
1 福岡市地下鉄を取り巻く環境	
2 現状と課題	
第3章 経営の基本方針	P.4
1 経営理念	
2 組織運営の基本方針	
第4章 計画期間の主な取組み	P.4
第1節 10年間の主な取組み	P.4
I 安全・安心の確保	P.4
II 快適で質の高いサービスの提供	P.6
III まちづくりへの貢献	P.7
IV 経営基盤の強化	P.8
第2節 七隈線延伸事業の推進	P.10
第5章 財政計画	P.12
1 乗車人員の今後の見込み	
2 投資計画について	
3 収支計画について	
第6章 経営戦略の進捗管理	P.14

福岡市地下鉄経営戦略（素案）

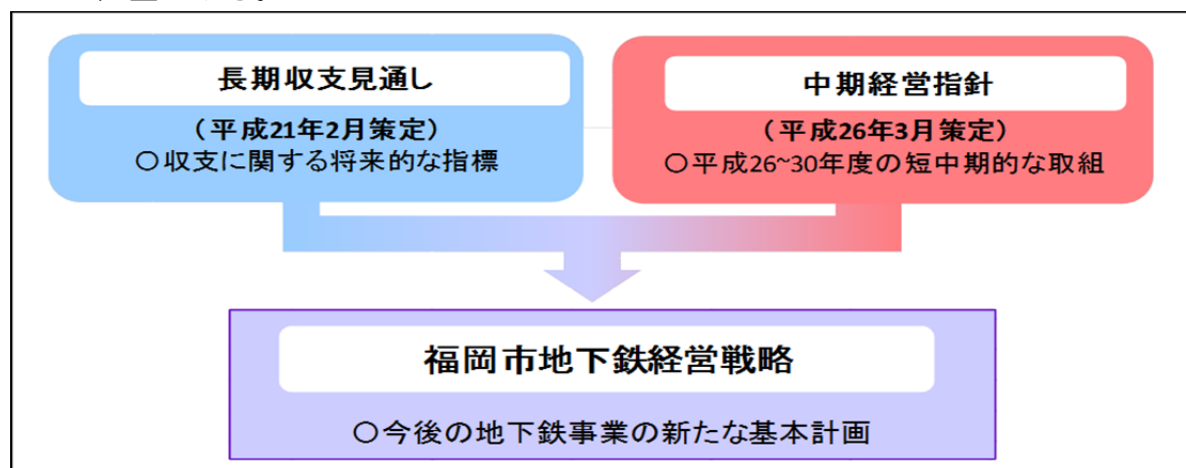
第1章 策定の目的

1 策定の目的

- 高齢化のさらなる進行や外国人利用客の増加への対応が必要
- 今後、地下鉄開業40年を迎え、施設・車両等の経年劣化への対応が必要
- 現在の福岡市地下鉄中期経営指針の計画期間は2018年度（平成30年度）まで
- 総務省は各公営企業に中長期的な経営の基本計画として「経営戦略」の策定を要請
- このような状況をふまえ、福岡市地下鉄が将来に渡って安全で快適な輸送サービスを提供していくための中長期的な経営計画として、福岡市地下鉄経営戦略を策定する。

2 計画の位置づけ、計画期間等

- 現在の福岡市地下鉄中期経営指針と福岡市地下鉄長期収支見通しを統合、刷新し、計画期間を2019年度（平成31年度）から2028年度までとする福岡市地下鉄の中長期的な経営計画として位置づける。



第2章 現状と課題

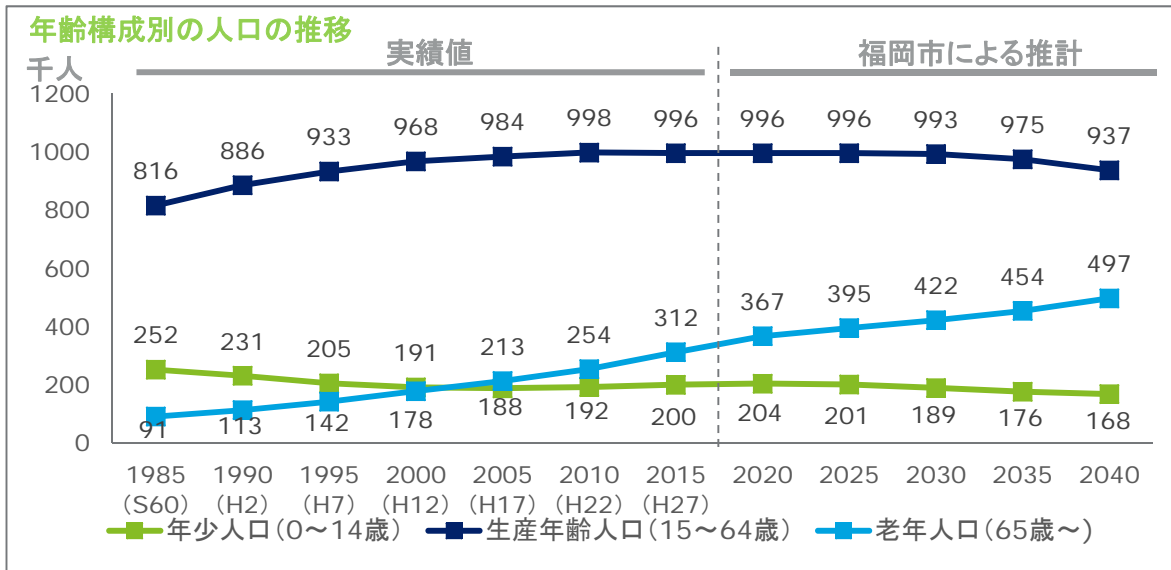
1 福岡市地下鉄を取り巻く環境

人口

○福岡市の将来人口推計によると、福岡市全体の人口は、今後、当面の間増加

○ただし、老年人口のみが増加し、年少人口、生産年齢人口は減少

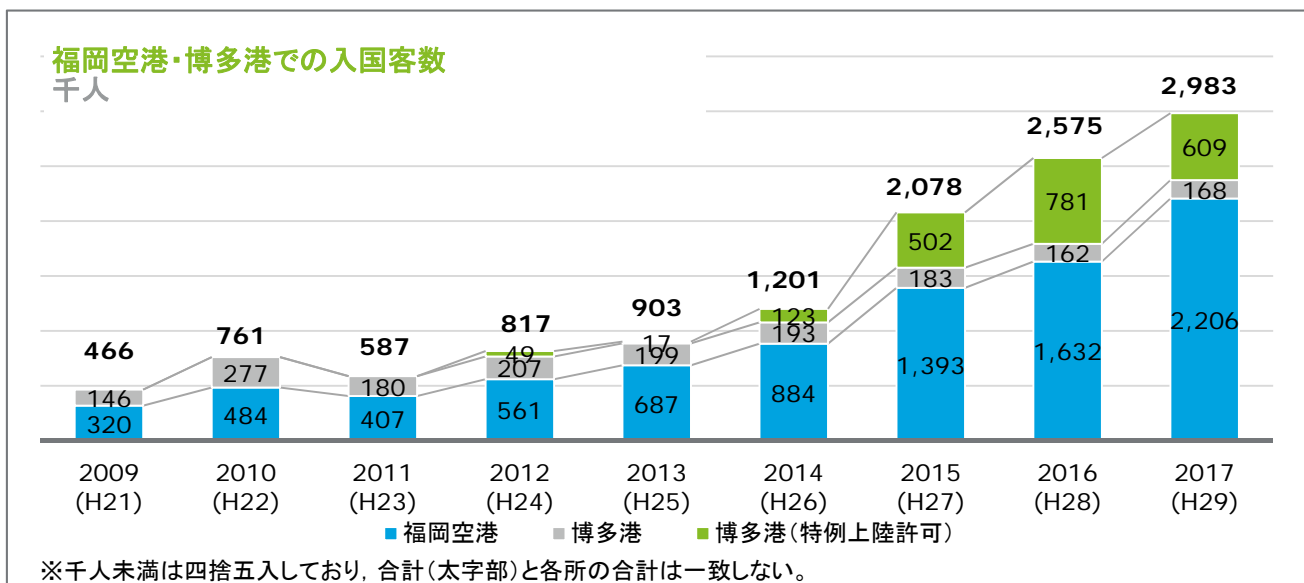
○今後、地下鉄利用者のメインである生産年齢人口の減少の影響に留意するとともに、老年人口増加への備えや対策が必要



観光

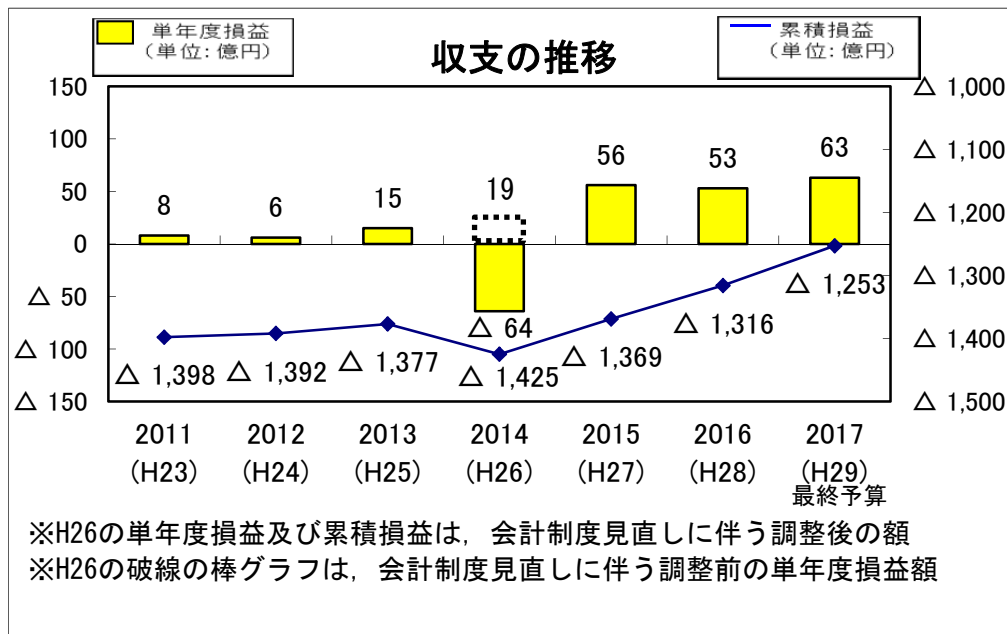
○福岡市への観光客数は年々増加。今後も増加すると考えられる。

○特に、外国人観光客については、福岡空港の利用拡大や福岡で開催される2019年（平成31年）のラグビーワールドカップ、2021年の世界水泳選手権等により、さらなる増加が見込まれる。



2 現状と課題

財政運営の状況



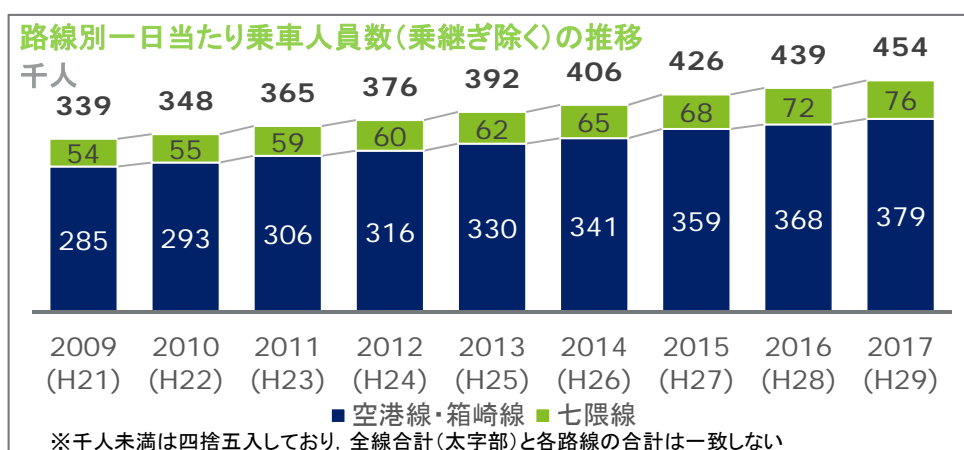
【現状】

○2016年度(平成28年度)の純利益(単年度損益)は53億円となっており、2009年度(平成21年度)に策定した長期収支見通しの計画を上回る。

【課題】

- 単年度損益は黒字であるものの、累積損益では1,200億円を超える赤字であり、また、今後、施設・車両等の経年劣化に対応するため、設備投資費等の増加も想定されており、引き続き収支を安定させていくことが重要
- ただし、安易なコスト削減ではなく、中長期的な視点で投資の優先順位を判断し、「安全性」を確実に維持していくことが必要

事業運営の状況



【現状】

○近年は、福岡市の人口増や入込観光客数の増加等による恵まれた外部環境や、福岡市交通局として、利便性やサービスの向上を推進してきたことにより、乗車人員数は増加

【課題】

- 今後も生産年齢人口は減少。高齢化の進展や外国人観光客の増加等、外部環境の変化への対応が重要

第3章 経営の基本方針

1 経営理念 ※将来に渡る根幹的な使命や価値観を示した「経営理念」を新たに作成（検討中）

【参考】現在の中期経営指針における「地下鉄経営の基本的考え方」

- 1 人と環境にやさしい輸送サービスの提供
- 2 長期的な視点に立った経営健全化の推進

2 組織運営の基本方針

(1) 情報の公開・発信（透明性の確保）

市民の知る権利を保障する情報公開の趣旨を踏まえ、情報の公表を適切に実施するとともに、利用者や市民にとって必要な情報をわかりやすい形で積極的に発信する。

(2) お客様・市民とのコミュニケーション

事業の運営や経営に関するお客様や市民の意見・評価を積極的に取り入れながら、利便性の向上や接客技術の向上等につなげる。

(3) コンプライアンスの推進

議会の審査や監査等の内外のチェック機能に適切に対応し、適法性・妥当性を確保した運営・経営を実施するとともに、安全運行のための義務を確実に履行し事故の未然防止等に努める。

第4章 計画期間の主な取組み

第1節 10年間の主な取組み

I 安全・安心の確保

(1) 安全マネジメントの推進

<安全マネジメントに関する教育訓練の充実>

- ・eラーニング等の新たな教育ツールの導入，局内イントラサイトを活用した情報共有の強化を通じ，職員一人ひとりの安全意識を向上

<ヒヤリハット情報の積極活用>

- ・事故の芽となる情報を収集・分析を行い，個々の案件に応じた安全対策を迅速に講じるほか，ヒヤリハット情報の共有化，内部監査への活用による事故の未然防止に取り組む。

(2) 安全スキルの向上

<事故復旧シミュレーション訓練の充実>

- ・様々なケースを想定した事故復旧シミュレーション訓練を充実し，異常時対応能力の向上を図る。

<技術継承のための研修等の充実>

- ・ベテラン職員の知識・技術を継承するための研修等を充実

(3) 施設、車両等の安全性の確保 **拡充**

<定期検査や保守点検による安全管理及び計画的な更新>

- ・土木構造物、軌道、駅施設、電力・信号設備、車両等について、確実に定期検査や保守点検を行うとともに、それぞれの更新計画を策定し、計画的に更新工事を推進

<車両基地の機能維持>

- ・地下鉄開業当初に建設した姪浜車両基地について、経年劣化に対応した補修や機器の更新等を確実に実施

(4) 災害対策等の強化

<合同訓練等の充実による関係機関との連携強化>

- ・大規模自然災害発生時等、様々な異常事態に対し、各関係機関と連携した迅速かつ適切な対応が図れるよう、局内外の関係部署による合同訓練等を充実

<集中豪雨等による浸水対策>

- ・地下ネットワークが高度化している博多駅、天神駅等の都心部の駅で、隣接するビル等との「浸水防止合同訓練」を充実

<感染症対策、テロ対策等の新たなリスクへの対応>

- ・テロや感染症等新たなリスクが多様化、複雑化していることに対応し、新たなリスクの把握、計画やマニュアルの見直しや訓練の改善を実施

(5) 管理・監督機能の強化 **新規**

<工事等に関する管理・監督機能の強化>

- ・施設等の維持、保全工事等を安全に行うため、受注者に対する安全講習会の充実、強化等による管理・監督機能の強化

<委託駅における管理・監督機能の強化>

- ・委託業者と緊密に連携し、安全講習会の充実や、日々の業務で生じた課題の迅速なフィードバックによる管理・監督機能の強化

(6) 安全・安心の取組みに関する情報発信

- ・安全マネジメントに関する取組みや、昼夜を問わず行っている車両・施設等の点検作業等について、ホームページに掲載するとともに、車両や駅の掲示等でも積極的に発信

Ⅱ 快適で質の高いサービスの提供

(1) スムーズな輸送サービスの提供

<使いやすいダイヤの提供>

- ・よりお客様が使いやすいダイヤとなるよう随時検討し、他社路線との乗継利便性の向上、大型イベントにあわせた臨時列車の運行を行う。

<はやかけんのサービス充実>

- ・「はやかけん」のポイントサービスのさらなる充実や、スマートフォンの普及にあわせたサービスの充実を図る。

<お客様ニーズ等に対応した企画券の提供>

- ・少子高齢化や外国人旅行者の増加等の社会情勢変化に対応した企画券を提供

<接客技術の向上>

- ・駅務職員の教育訓練環境を整備し、実践に即した効果的な駅務研修の実施

(2) みんなに使いやすい環境づくり

<車両、駅のバリアフリーの充実>

- ・優先スペースの統一、二段手すり等による車両のバリアフリーや、空港線、箱崎線の駅における昇降機の増設を計画的に推進するとともに、車両とホームの段差を小さくする改善を図る。

(3) 快適・便利な環境づくり

拡充

<乗車マナーの向上>

- ・整列乗車、乗車時のマナー、エスカレーターの安全利用、外国人に対するマナー啓発等について取組みを強化

<駅の利便施設の充実>

- ・お客様の利便性が向上するよう、駅空間を有効活用し、駅構内にコンビニエンスストアや飲食店等の利便施設を充実

<防犯対策の強化>

- ・駅務職員等への防犯教育の充実や防犯カメラの機能の充実等による防犯対策の強化

<車内混雑への対応及び空調、換気設備の改善>

- ・混雑率を緩和するためのダイヤ改正等の対策や、定員着座しやすい車両シートの改良等により、混雑時でも快適に乗車できる取組みを推進するとともに、駅構内の全館冷房やクールルーム等の空調・換気設備の改善に努める。

<地下鉄の新たな魅力づくりの推進>

- ・おもてなしの視点を取り入れた駅や車両の空間づくり等による新たな魅力づくりの推進

(4) 超高齢者社会に対応した輸送サービスの提供

拡充

<高齢者対象の企画券の充実>

- ・「ちかパス65」の利用促進を図るとともに、高齢者を対象とした企画券を充実

<駅構内のベンチの増設>

- ・駅構内の通路が長い箇所にベンチを増設し、高齢者が地下鉄を利用してお出かけする際に、気軽に安心して利用いただけるような環境を整備

(5) 来街者にも使いやすい環境整備とサービスの提供

拡充

<来街者にわかりやすい情報案内の充実及び大型ロッカーの充実>

- ・時刻表や乗換案内等の地下鉄利用に必要な情報提供のデジタルサイネージ化を推進するとともに大型ロッカーの割合を増やす等により、来街者にも使いやすい地下鉄を目指す。

<多言語による案内サービスの強化及び外国人観光客の地下鉄利用の促進>

- ・福岡空港駅、博多駅等の主要駅窓口でのタブレット端末による案内サービスの充実や、多言語対応可能な専門スタッフの配置等、駅案内や観光情報等を提供するサービスを実施するとともに観光客向けはやかけんの提供等に取り組む。

(6) お客様のご意見を活かしたサービスの向上

<地下鉄モニター制度>

- ・地下鉄モニター制度の活動内容の充実を図り、様々なお客様サービスの向上に積極的に活用

Ⅲ まちづくりへの貢献

(1) 沿線まちづくりに対応した駅施設の改良等

新規

<天神ビッグバンにあわせた天神駅のリニューアル>

- ・「天神ビッグバン」にあわせて、天神駅東側コンコース等のレイアウトを変更し、駅の利便性・回遊性を向上

<九大箱崎キャンパス跡地まちづくりにあわせた貝塚駅のリニューアル>

- ・まちづくりにあわせて、貝塚駅の利便性の向上を図り、魅力的な駅にリニューアル

(2) 沿線の地域、イベント、施設等との連携

拡充

<駅の魅力づくり、沿線イベントとのタイアップ>

- ・各駅ごとの特性を踏まえた駅の魅力づくりにより各駅の個性化・活性化を図る。
- ・沿線のまち歩きの魅力と情報をわかりやすく発信する。

<大規模 MICE とのコラボ>

- ・ラグビーワールドカップや世界水泳選手権等の大規模な MICE の開催にあわせて、主催者と連携、協力し、大会の盛り上げやおもてなしをサポート

(3) 総合交通体系の構築

<公共交通を主軸とした総合交通体系づくりの推進>

- ・「公共交通幹線軸の充実・強化の検討」にあたり、交通事業者として、期待される役割を果たす。

<乗継利便性の向上>

- ・他の交通機関との乗継ぎに関する相互の情報案内の充実や、他の交通機関と連携した運賃施策等を実施することによって、乗継利便性の向上を図る。

<自動車利用からの転換>

- ・駅周辺のパーク&ライド駐車場の利用促進や拡大、「はやかけんレール&カーシェア」のサービスの拡充、「ファミちかきっぷ」等の利用促進等により、過度な自動車利用から公共交通機関への利用転換を推進

(4) 環境対策に関する取組み

<環境にやさしい乗り物としてのPR>

- ・地下鉄は CO2 排出量が非常に少なく、環境にやさしい乗り物であることから、環境と健康の観点から地下鉄利用を促す「SUBWAY DIET（サブウェイ・ダイエット）」等の啓発活動を展開

<省エネの取組み>

- ・車両への省エネ機器の設置や新技術の導入による消費エネルギーの効率化等を実施

IV 経営基盤の強化

(1) 戦略的な営業施策の推進

新規

<データ分析に基づく戦略的な営業施策の推進>

- ・より効果的、効率的な顧客サービスの向上と増客増収を図るため、各種データを積極的に活用し、データ分析に基づく戦略的な営業施策を推進

(2) 関連事業の推進と遊休資産の有効活用

拡充

<広告料収入、構内営業収入の確保>

- ・広告に対するニーズの変化やデジタルサイネージ等の新規広告媒体の積極的な導入を図り、広告料収入の確保に努める。

- ・構内営業について、ATM、宅配取次ボックス、大型ロッカー等の充実を図る等、さらなるお客様の利便性向上と構内営業収入の確保に努める。

<遊休資産の有効活用>

- ・交通局所有の土地や活用されていない空きスペース等の遊休資産について、活用方法を検討し、所有資産全体の有効活用を推進

(3) アセットマネジメントの推進

<アセットマネジメント実行計画の作成と着実な推進>

- ・経年劣化した施設、車両等について、安全性に関する重要度等を適切に評価した上で、具体的な更新時期等を示したアセットマネジメント実行計画を策定し、着実な推進に努める。

(4) 経営の効率化

- ・安全性を確保した上で、検査費用の低減を図る等の取組みを進めるとともに、民間ノウハウの積極的な活用を推進することで、経営の効率化に取り組む。

(5) 人材確保と育成

<計画的な人材育成>

- ・「交通局人材育成基本方針」に基づいた人材育成を計画的に推進

<資格保有者の確保及び運輸関係職員の人材確保>

- ・鉄道設計技士等の資格を有する職員を確保するため、資格取得に向けた支援等を実施するとともに、運輸関係職員の大量退職や乗務員の要員増に対応するため、計画的な採用に取り組む。

<職場環境づくりの推進>

- ・全ての職員が、やりがい・働きがいを感じ、能力を発揮できる職場づくりを推進するため、風通しのよい職場環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの推進、模範となる職員を表彰する制度の充実等に取り組む。

第2節 七隈線延伸事業の推進

事業概要

- 延伸区間 天神南～博多
- 建設キロ 約1.4 km（営業キロ約1.6 km）
- 建設費 約587億円
- 利用人数 延伸区間で約8.2万人/日（需要定着後）
うち、新規利用者数※：約2.3万人/日
※マイカー等から乗り換えて新たに地下鉄を利用する人数
- 開業予定 2022年度
- 全体スケジュール



七隈線延伸事業については、社会情勢等の変化に加え、2016年（平成28年）11月8日に発生した道路陥没事故の影響により、事業費を見直すとともに、開業予定時期も2022年度に変更した。

これらのことについて重く受け止め、二度と事故を起こさないという強い決意のもと、安全を最優先に着実に七隈線延伸事業を進めるとともに、わかりやすい情報発信に努め、市民の皆さまの期待に応えられるよう、全力で取り組む。

（1）安全を最優先とした工事の推進

<工事の安全・着実な推進>

- ・「福岡市地下鉄七隈線延伸工事現場における道路陥没に関する検討委員会」から示された工事再開に関する留意点や、「福岡市地下鉄七隈線建設技術専門委員会」からの意見等を真摯に受け止め、事故の再発防止に努めながら、安全を最優先に、着実に工事を進める。

<工事の進捗や安全対策に関する情報の発信>

- ・工事の進捗状況や安全対策の取組み等に関する情報を、市民にわかりやすく丁寧に発信する。

(2) みんなが使いやすく、魅力のある新駅の整備

<使いやすい駅レイアウトの検討>

- ・中間駅（仮称）は、回遊性の向上につながるレイアウトとするとともに、ホームからコンコースまでの移動がスムーズに行えるよう、エスカレーター等の昇降設備を充実
- ・博多駅（仮称）は、空港線・JR線へのスムーズな乗換え等、多様な移動ニーズに対応したレイアウトとする。

<魅力ある駅デザイン>

- ・七隈線路線全体のデザインの基本的な考え方を踏襲しつつ、駅の個性化等について、「福岡市地下鉄デザイン委員会」での検討を踏まえ、魅力的な駅デザインとなるよう取り組む。

<地域と連携した魅力賑わいづくり>

- ・中間駅（仮称）は、駅周辺において、はかた駅前通りの再整備等のまちづくりが進められていることから、地域団体等と対話しながら、駅の魅力賑わいづくりに取り組む。

<環境にやさしい駅づくり>

- ・延伸区間に建設する駅では、高効率照明器具等の導入により、環境にやさしい駅づくりを実施
特に、中間駅（仮称）では快適性はそのままに、駅の電力消費量を50%削減する「エコウェイステーション」の実現を図る。

(3) みんなが使いやすく、環境にも配慮した車両の導入

- ・七隈線延伸時に新たに導入する車両は、優先スペースの増設や情報提供の充実、ユニバーサル都市福岡にふさわしい機能の強化、照明のLED化等の省エネルギー化を図る。

(4) 使いやすい輸送サービスの提供

<使いやすいダイヤの提供>

- ・博多駅において七隈線と空港線の乗換えが可能になることや、七隈線からJR線への乗継ぎも便利になること等を踏まえ、使いやすいダイヤを提供

<わかりやすい料金制度の構築>

- ・現在の天神駅に加え新たに博多駅で七隈線と空港線の乗継ぎが可能になることから、乗継箇所によって駅間の乗車距離（料金）が異なることになるため、お客様にとって使いやすく、わかりやすい料金制度を構築

(5) わかりやすい情報の発信

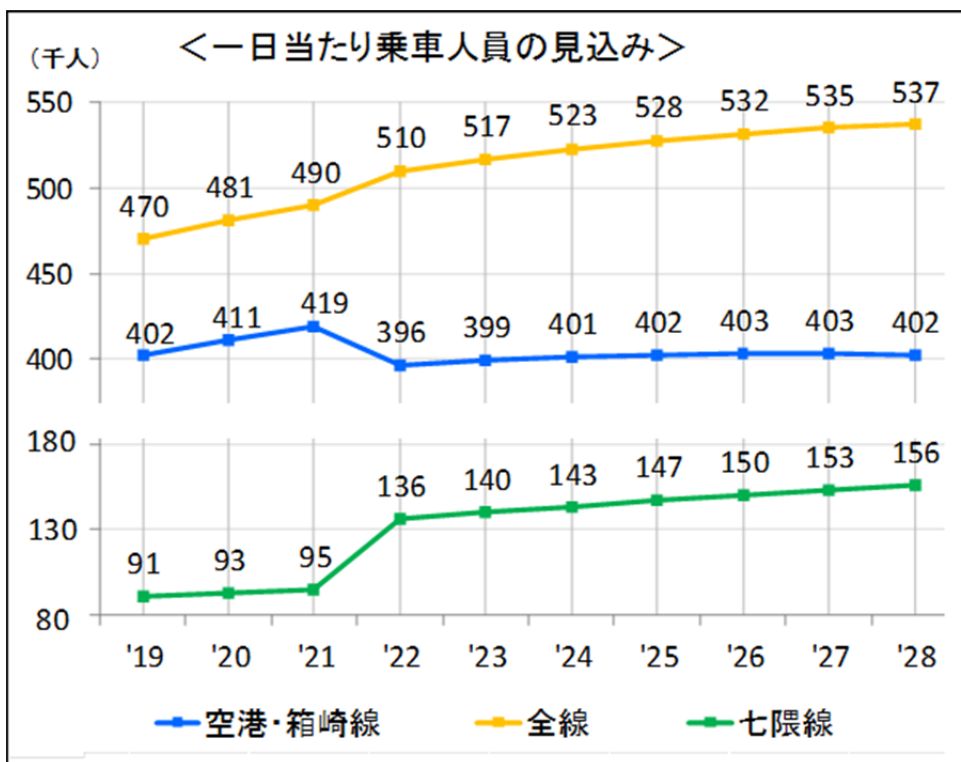
- ・延伸事業の情報発信コーナーやホームページ等のツールを活用し、丁寧な情報発信に努めるとともに、事業効果等をわかりやすく発信

第5章 財政計画

1 乗車人員の今後の見込み

○福岡市地下鉄経営戦略に示す取組みを推進する等の営業努力により、多くのお客様にご利用いただける地下鉄を目指し、計画終了年度の2028年度の一日あたり乗車人員として、53万7千人を見込む。

○七隈線延伸開業に伴い、一日あたり約2.3万人の新規利用者が増加すると見込む。
(最終数値については平成31年度予算編成とあわせて最終調整を行う。)



2 投資計画について

(1) 新規投資（七隈線延伸事業）

○総事業費約587億円。経営戦略の計画期間内である2019年度（平成31年度）～2022年度において、約330億円の投資を見込む。

(2) 更新投資（営業線改良事業）

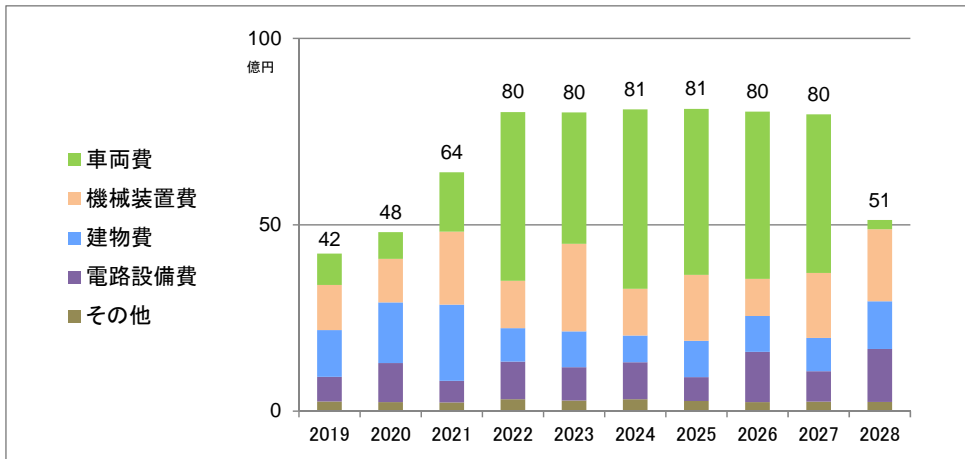
○空港・箱崎線は開業から37年を経過し、長寿命施設においても更新・改修が必要な時期に差し掛かっている。

○七隈線は、開業から13年を経過し、保安設備等の更新時期を迎えている。

○今後10年間で約688億円の投資を計画している。

○投資内訳は、概算で車両関係295億円、機械装置関係156億円、建物関係116億円、電路設備関係94億円、その他27億円を見込む。

更新投資額の見込み



営業線改良に係る主な事業の実施時期

(単位: 億円)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	計
1000N系車両更新										→	184
2000系車両大規模改修	→			→							27
3000系車両大規模改修										→	50
3000系車両増備				→							28
変電所設備改良										→	39
運行管理システム改良			→	→					→		14
出改札設備改良			→							→	30
昇降機増設										→	15
駅照明設備更新										→	13
姪浜車両工場建築物外改良						→					14
土木構造物改良										→	14
電気室設備改良										→	20
自動列車制御装置(ATC)改良										→	26
自動列車運転装置(ATO)改良	→								→	→	13

3 収支計画について

平成31年度予算編成と並行して策定する

第6章 経営戦略の進捗管理

- 施策の取組状況や進捗状況を把握する指標として成果目標を設定する。
- 成果指標の達成状況等により、毎年度、進捗を確認した上で、翌年度に向けた検討を実施する。
- 計画の中間年次となる2023年度には、それまでの進捗状況や成果指標の達成状況等について、評価、検証を行うとともに、お客様ニーズや社会経済情勢の変化等もふまえながら、経営戦略の適切な見直し（ローリング）を実施する。
- 経営戦略の進捗状況については、決算報告等を通じて、市議会への説明を行うとともに、市民やお客様に対しては、ホームページ等を通じて、進捗状況等を公表し、ご意見をいただきながら、毎年度の事業運営や経営戦略の見直し等に反映する。